

永井あい子 あいか 評論家、歌人。慶應二年三月十八日上總國茅野村生れ、昭和二年四月二十三日歿（二八六—一九六）。舊姓松本、本名えい。

又えい子、映子、英子とも署す。父と共に上京して洋學者津田仙の家に寄食。仙の設立した救世學校に入學し、のち海岸女學校と改稱した母校の教師を務めた。この頃、メソジスト派の宣教師ジョン・C・デビソンから讚美歌和譯の依頼を受け、『譜附基督教聖歌集』（明治十七年頃刊）を完成。十九年東京高等師範學校女子部に入り、助教師の資格を以てアメリカ人教師の授業で通譯。學校は獨立して女子高等師範學校と改稱した二十二年卒業。二十六年デビソンからの再度の依頼で始めた聖歌集の改訂を二年かけて完了、『改正基督教聖歌集』（明治二十八年刊）として出版。二十一年津田梅子の紹介で、下田歌子が學監を務める華族女學校の雇教師となり、英語と家政を教へた。

二十二年頃『毎日新聞』記者いなり足尾鑛毒事件を取材、『鑛毒地の惨狀』（明治二十五年刊）の編纂出版を置土産にしてアメリカに渡り、Tama Ide（井出エ子）の名で講演等が活躍。二十九年英語教科書の日本語譯の仕事で知り合つた永井元と結婚。この年サンフランシスコ大地震で被災するも、救濟會を組織して救済活動に従事。その後カレッジ・オブ・パシフィックを卒業。また世界大戰の折には『在米婦人新報』等が非戰論を精力的に執筆した。

歿後、四六判千四百餘頁に及ぶ詩歌論稿の全作業を集成した『永井あい子詩文』（昭和四年四月二十三日永井元編刊）が出版せられた。府



馬清著『松本英子の生涯』（昭和五十六年二月二十日昭和図書出版）がある。